

職場における交通安全指導 Part.7

高速道路の危険箇所とその対応

高速道路の交通事故防止問題について、本号では、「高速道路の危険箇所(地点)とその対応」についてまとめました。高速道路の安全走行を確保するための参考として是非ご活用ください。

危険箇所・ここが危ない

合流地点

インターチェンジやサービスエリアからの加速車線と本線との合流地点は、相手車の見落としや速度測定の見誤りに絡む事故が多く発生しています。また、夜間には視力の低下やドライバーの錯覚から加速車線を本線と見誤り、スピードが出ていない先行車やサービスエリアからはみ出している停止車両に追突する事故も多発しています。

<対応のポイント>

合流地点では、合流車線や他車線を走行中の車両を早めに確認し、そのスピードを計算して無理な割り込みや脇見運転は絶対にしない。

トンネルの出入口付近

トンネルの入口手前では車両の流れるスピードが若干落ち、入口付近に達すると、視界の悪化や圧迫感、不安感が高まることからさらにそのスピードは落ちます。このとき車間距離が詰まっていたり、スピードを出し過ぎていると追突事故が発生しやすくなります。

反対に出口が近づき明かりが見えはじめると、ついスピードを出しがちとなり、危険な状態を生みます。

<対応のポイント>

トンネルの手前では必ず十分な車間距離をとり減速する。また出口付近では気を緩めず、スピードを出し過ぎないようにする。

カーブ地点

遠心力がかかるカーブでは、スピードを出し過ぎているとカーブを曲がりきれず、オーバーランして側壁等に衝突するなどの事故が発生しやすく、また、これを避けようと急ハンドルや急ブレーキをかけると、スリップや横転事故につながります。

<対応のポイント>

カーブ手前では必ずスピードを控え、急ハンドルや急ブレーキをかけないですむ速度で進行する。

アップダウン地帯

長い坂道を走っていると、勾配が変化していたのに気づかず、加速したり減速したりして事故を招くことがあります。また、長い坂道のあとでは急にスピードを上げたり、いきなり車線を変更してくる車がいるため、交通の流れが乱れ一時的に危険な状態となります。

<対応のポイント>

勾配変化とスピードメーターをチェックし、勾配が変わる手前であらかじめ車間距離を調整する。

渋滞地点

自然渋滞、事故渋滞や工事渋滞箇所でも多いのが追突事故です。また、追突を避けようと急ハンドルを切って、中央分離帯や側面壁に衝突する事故も発生しています。

<対応のポイント>

脇見運転は絶対に避け、先行車がいつ停止してもそれに対応できる十分な車間距離の確保とスピードで、かつ後続車から追突されないようにポンピングブレーキを使いながら停止する。